

平成25年3月15日

熊本県知事 蒲島郁夫 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康

7. 12 水害被災者の会

代表 熊本市東区石原3丁目9-40

西島武継

熊本市東区吉原268

林田真寿夫

年穂神社 総代

坂口茂弘

日本野鳥の会熊本県支部

田中 忠

代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康

電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

情報公開と説明会事前協議開催 を求める要望書

貴職におかれましては、白川流域の災害対策に常日頃からご配慮くださっていることに、心から感謝申し上げます。

さて、昨年7月12日洪水で、熊本県管理区間（小碓橋から菊陽町境界まで）の白川は、改修がほとんど未着手であったため、大きな浸水被害を受けました。昨年10月、熊本県は住民に対する説明会を開き、この区間の新たな河川改修計画を発表しました。住民の生命と財産を守るために河川改修は必要不可欠ですが、この改修計画を見ると住民が納得できない箇所が多々あります。

昨年12月28日、私たちは白川改修に関する要望書を提出し、説明会を開催することを要望しました。ところが、2月4日に託麻北地域コミュニティセンターで開かれた説明会では、要望していた該当地区の詳細な計画平面図、200m毎の河道断面図、河道流下能力算定表（200m毎の地点ごとのH-Q式が掲載されたもの）等を用いた客観的な説明がなされることもなく、これまでの説明内容から二転三転した点もあり、住民が納得できる説明は全くなされませんでした。これでは熊本県は説明責任を果たしたとは言えません。そこで、下記2点について要望します。3月29日までに回答を求めるところです。

記

1. 熊本県は、該当地区について以下の資料を公開すること。

- ①該当地区の詳細な計画平面図
- ②200m毎の河道断面図
- ③河道流下能力算定表（200m毎の地点ごとのH-Q式が掲載されたもの）
- ④この改修によって流下能力がどの程度増大するかについての水理計算結果と、用いた粗度係数

2. 説明会を早急に開催すること。説明会開催に当たっては、公開した上記資料をもとに事前協議を開き、説明会の方法、内容等について住民と十分協議をすること。

■補足資料：住民が納得できない箇所は、主に下記4箇所である。

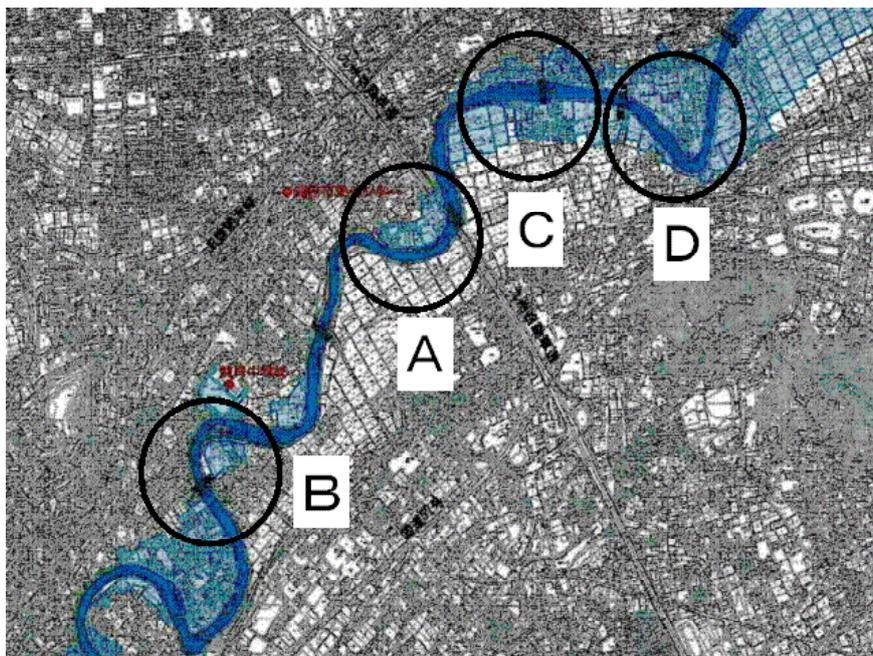
(A) 高速道路橋（白川橋）下流では、浸水したホシサン醤油工場側ではなく、対岸の高さ20mのガケの川幅を広げることになっている。ホシサン工場側の川幅を広げた方が、掘削する土量が約10分の1で済むので、工事費も10分の1で済むし、工期も大幅に短くて済む。ホシサン工場を移転する必要もない。掘削予定の高さ20mの崖は貴重な樹林帯となっており、カワセミなどの野鳥の楽園となっている。平成14年の河川整備計画では、浸水したホシサン工場側を広げることになっていたのに、なぜ今回変わったのか。

(B) 三協橋の東側（上南部一丁目）では、浸水していない高台の住宅地が移転対象になっている。浸水した西側（龍田一丁目）をもっと広げればよいものを、なぜ高台の東側（上南部一丁目）の住宅多数が移転しなければならないのか。

(C) 吉原橋周辺では、浸水した住宅地の川幅を広げない計画になっている。宅地以外の川幅は広がるのに、浸水した住宅地の川幅が、どうしてそのままなのか。新しい吉原橋の高さがほとんど変わらないのはなぜなのか。どうして高くしないのか。吉原橋下流の湾曲部は10年も前に県が用地買収したのに、なぜ拡幅もせず放置したままだったのか。これでは人災と言われても仕方がない。県は「改修は下流から行わないといけないので、県管理区間の改修はできなかった」等と説明している。しかし、熊本市街地（長六橋～蓮台寺橋）の改修は完成しているのに、それより下流の蓮台寺橋～熊本西大橋付近の改修を、今あわてて行っている状況をどう説明するのか。

(D) 計画では、弓削神社の対岸に洪水が集中することになる。ここは、白川で一番のヘアピンカーブである。もっと川幅を広げ、カーブを緩くしなければ、洪水があふれてしまう。

以上



弓削橋（龍田町弓削）から三協橋（龍田一丁目）までの白川